

## 平成 30 年度第 1 回神奈川県子ども・子育て会議

かながわ子どもみらいプランの次期改定に係る子ども・子育て会議委員からの意見への対応

項目	意見	対応の方向性
少子化の現状	○ <u>子育て支援を進めている中、合計特殊出生率が減少・悪化していく傾向に対して、県はもう少し危機感を持ったほうがよい。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ <u>大都市圏では人口の再生産ができないのが一般的であり、合計特殊出生率の目標にこだわっても達成できない。目標値を下げる必要があるのではないか。</u>	* 合計特殊出生率は、他の計画（県「まち・ひと・しごと創生総合戦略」）の目標値であるため、反映は困難。
	○ <u>なぜ次の（二人目の）子どもを持たないのか、実態をよく見ていく必要がある。</u>	○ <b>対応済み</b> 国の出生動向基本調査等の結果を確認しています。
	○ <u>次の計画は、時代の変化や意識がどう変わってきているかを踏まえる必要がある。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b> 現状の変化や、県民ニーズ調査（課題調査）の結果を踏まえ、検討
	○ <u>厚労省の資料では、女性ほどの年齢層でも非正規雇用者の結婚が多い。女性は家庭を主に、結婚したらパートで働けばよいといった考えが多いのかもしれない、出生率の問題は、ジェンダー観も含めたアプローチが必要ではないか。</u>	○ <b>対応済み</b> 引き続き、男女共同参画意識の普及等に取り組む。
	○ <u>子育ての孤立化の原因について、もう少し意識調査の結果を取り入れ、核家族化だけでなく、近隣とのつながりや地域の子育て支援が不十分で、身近に得られる支援が減少していることがあると示したほうがよい。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b> 県民ニーズ調査（課題調査）の結果を踏まえ、検討
	○ <u>2045年までの国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の数字を入れてはどうか。</u>	○ <b>対応済み</b> 同研究所の将来推計人口の出生率をもとに推計されているため。
	○ <u>県の東と西では、人口推計の状況が大きく異なることも加えてはどうか。</u>	* 地域別の将来人口推計はあるが、年齢区分別がないため反映は困難
子ども・子育てをめぐる	○ <u>いじめの認知件数の増加は、実際は学校の積極的な認知による結果であり、いじめが著しく増加しているとは言いがたい。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b> 増加の背景等の記述内容について検討

項目	意見	対応の方向性
現状	○ <u>児童虐待対応件数の対子ども人口比</u> が、神奈川県は全国と比べて高いのか、低いのか。 <u>里親の子ども数、児童養護施設の子どもの数の対子ども人口比</u> も、全国との比較で見られないか。	○ <b>対応済み</b> 児童虐待対応件数の18歳未満人口1,000人当たり件数と里親委託率(全国・県)を追記
	○ <u>医療的ケア児、食物アレルギーのある子どもの数、障がいのある子どもの数の変化</u> が知りたい。	○ <b>対応済み</b> 医ケア児、食物アレルギーの児童数は統計なし。障害のある子ども数については追記
	○ 子どもの <u>スマホ保有率</u> など、ICT化の現状を示すデータはないか。	○ <b>対応済み</b> インターネット利用率とコミュニティサイトを利用した事件の被害児童数を追記
	○ 子どもが多くの時間を過ごす学校の状況として、「 <u>公立学校職員の人事行政状況調査</u> 」から <u>精神疾患による病気休職者数等、わいせつ行為等の懲戒処分件数</u> などを紹介してはどうか。	* 当該データは学校の状況を表す側面もあるが、課題となる教員の働き方改革や不祥事防止対策は、当プランへの位置づけが想定されないため、反映は困難
	○ 保育士のオーバーワークが多く、 <u>負担を軽減するための対策</u> が必要	○ <b>骨子・素案で検討</b> 人材確保及び質の向上の充実について、検討
	○ 保育所の低年齢児は定員越えの状態になっている。 <u>0～1歳児への対策</u> が必要である。	○ <b>骨子・素案で検討</b> 保育の需給計画で検討
	○ 以前、 <u>不登校児が保育所で子どもと触れ合う機会</u> を設けた。児童は学校に戻ることができたが、受け入れは学校の理解を得られずやめてしまった。よい取り組みを残せるようにしてほしい。	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ 県民ニーズ調査において、安心して子どもを生み育てる環境整備の「満足度」は低下しており、育児に対する社会的な評価についても「評価されない」と感じている方が増えている。県民が「 <u>まだまだ</u> 」と感じている理由について、どこが足りないのかを精査し、原因をはっきりさせ、 <u>県民に子育てしやすいまちとってもらうための取り組みが重要</u> 。	○ <b>骨子・素案で検討</b> 県民ニーズ調査(課題調査)の結果を踏まえ、検討
仕事と子育ての両立の現状	○ 幼児教育無償化は、経済政策や労働政策として実施されるように見える。 <u>子どもの最善の利益、子どもを中心に制度をどう活かすかという視点</u> を持つべき。	○ <b>骨子・素案で検討</b> 改定計画においても引き続き「子どもの健やかな育ちを第一に考える」の基本理念を継承

項目	意見	対応の方向性
	○ 無償化により保育ニーズが喚起され、 <u>待機児童をますます増やすのではないかと</u> いう懸念がある。	○ <b>骨子・素案で検討</b> 市町村子ども・子育て支援事業計画における状況を確認
	○ 幼児教育無償化について、特に <u>2号、3号認定こどもの需要に影響がある</u> と思われるので、次期計画である程度見込む必要がある。	
	○ 保護者には「産後明けに復帰したい」、「1歳までは子どもにしっかり関わりたい」など <u>様々な選択肢があるべき</u> 。	○ <b>骨子・素案で検討</b> 改定計画の施策展開の方向性において、「保護者が育てる力」は、「多様なニーズに応える（多様な選択肢を支える）」ことを踏まえて取り組むことがわかるように整理するなどの対応を検討する。
	○ <u>重要なのは多様な選択肢を選ぶことができるような体制を整えていくこと</u> 。労働力不足への対応から、女性の就業率を高め、そのために預ける施設を作り、手当も出すというのはありがたいことだが、一方向に流されている傾向が強いと思う。	
	○ 女性のM字カーブは悪いことばかりではないと思うが、ジェンダーの問題もあるので、極端な話、男性の育児休業の取得期間を長くして、就業率は少し下がる覚悟をするなど、 <u>様々な選択肢があることを知ってもらい、それをサポートすることが重要</u>	
	○ 子育てに希望を持ってないという課題がある。 <u>余裕をもった子育てができるように、選択肢がたくさんある状況がよい</u> 。	
	○ 「仕事と子育ての両立」というまとめ方だと、女性は働くほうが良いという視点になってしまう。働く理由は様々であり、 <u>多様な選択肢があって、それを選ぶことができる社会を目指したプランにしてほしい</u> 。	
	○ 若い世代は、「子育てはオワコン」だと、子育てに希望が持てないでいる。子育てに希望を持つためには、 <u>短絡的に子どもを預ける場所があればよい</u> ということではなく、性的役割に縛られることなく、 <u>多様な価値観で、多様な生き方ができる、選択肢がたくさんある状況が必要</u>	
	○ 無料だから早く施設に入れなければ損」といったモラルハザードが心配。保護者には、 <u>乳幼児期は親子で肌と肌が触れ合う時間が重要だ</u> ということを考えてほしい。	○ <b>骨子・素案で検討</b>

項目	意見	対応の方向性
	○ 少子化が進む中、保育施設の新設ばかり進めるのではなく、 <u>既存の幼稚園を活用した対応を図るべき。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b> * 幼稚園における2歳児預かりの拡大は、中間見直しで反映済み
	○ 核家族が増加している中、子育ては、 <u>コミュニティでいろいろな世代や地域の方が関わって、一緒にサポートしていくことが大事</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ 「お金を出すから働きなさい」ではなく、 <u>子育てを評価、サポートする対策が必要</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ これからの多様な社会を支えていく貴重な能力やスキルのある女性が、何時間も保育所に子どもを預けるのではなく、 <u>余裕をもって働きながら子育てができる環境を作ることが必要</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ 若い世代の教育水準が上がり、感覚も変化している。 <u>若い世代の希望を聞いて、働きながら子育てできる環境を作っていくことが重要</u>	
	○ <u>女性の社会参画、キャリアアップで一番問題となっているのは病児保育だが、経済的には全然割に合わず、公的な補助がしっかりしていないと続けられないため、対応を検討してほしい。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b> * 中間見直しで目標値(全市町村で実施)を設定済み
	○ 少子化対策も重要だが、今生まれて育っている子どもたちが大切にされ、 <u>生まれてよかったと実感できるような具体的な支援や取組みを盛り込んだプランとすべき。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ 女性の活躍推進には、男性の家事・育児参画が必要。 <u>子どもと触れ合う時間が増やせる、夫が家事・育児に協力的な家庭の方が第2子が生まれやすいなど、メリットがたくさんあることを伝えていくことが重要</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ 点検・評価で「C」や「D」と結果が良くない項目についても現状のデータとして示すべき。	○ <b>骨子・素案で検討</b> 最終年度の数値(累計)を目標としているものが多く、次年度の点検・評価結果を踏まえ、検討
	○ 指針改正に関して、 <u>新・放課後子ども総合プランに基づく特別な配慮を必要とする児童や、社会的養育に関する具体的な数値も現状のデータで示すとよい。</u>	○ <b>対応済み</b> 障害のある子どもの数や里親委託率を追記

項目	意見	対応の方向性
	○ 神奈川県は通勤時間が全国一長いが、 <u>通勤しなくても働けるような体制を作ること、家庭を守るために必要。経済界、産業界との連携ということがあってもよい。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b>
	○ 親の就業状態（正社員、非正規、自営、失業など）がどのように変化しているのか把握できるデータはないか。また、父母とも正社員の子どもと、父母が非正規や失業の子どもの格差はわかるか。	* 就業構造基本調査の結果をみると、男女とも就業状態別の割合に大きな変化はなく、現状分析としては女性の就業率の上昇を掲載 * 父母の就業状況の違いと子どもの格差についてはデータがなく反映が困難（≒相対的貧困＝子どもの貧困とも考えられる。）
	○ 在宅勤務（テレワーク）、短時間勤務などの利用率を知りたい。	○ <b>対応済み</b> 事業所における制度の導入状況を追記
その他全般	○ <u>子どもが中心、子どもが主体者になるプランにしたい。</u>	○ <b>骨子・素案で検討</b> 改定計画の施策展開の方向性において、「子どもが生きる力」を強化するよう整理するなどの対応を検討
	○ <u>縦割りでではなく、総合的に子どものことを考えられるプランにすべき。</u>	